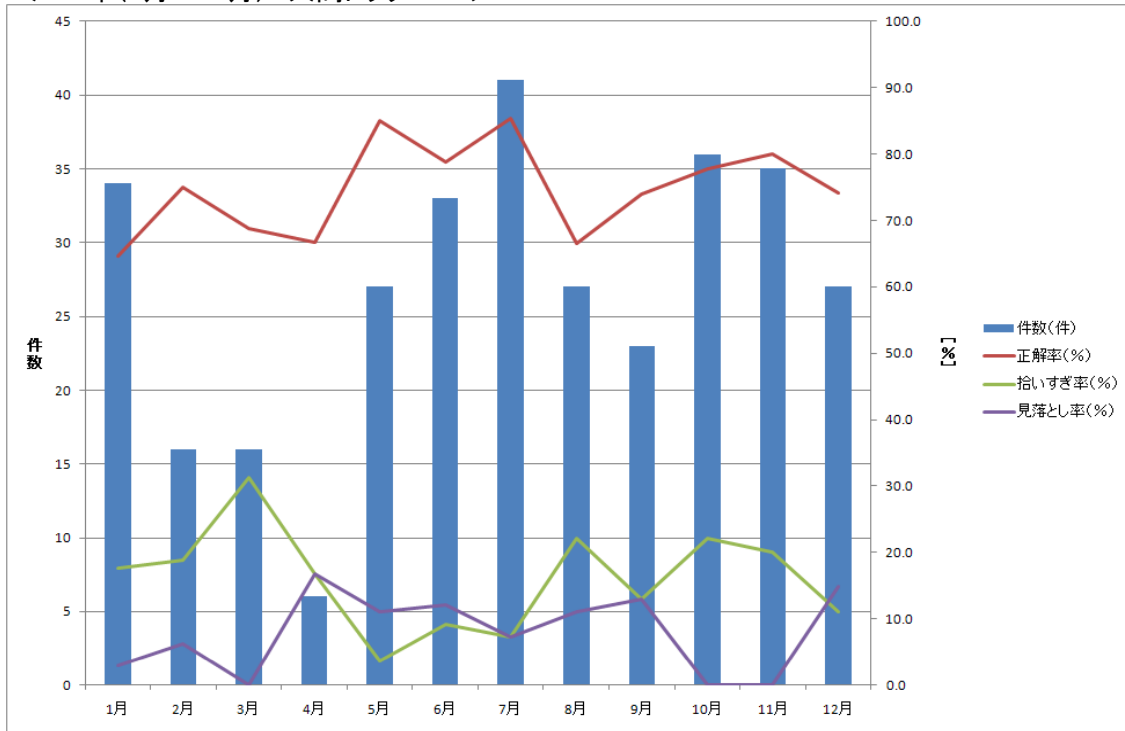


放射線科 クリニカルインディケーター

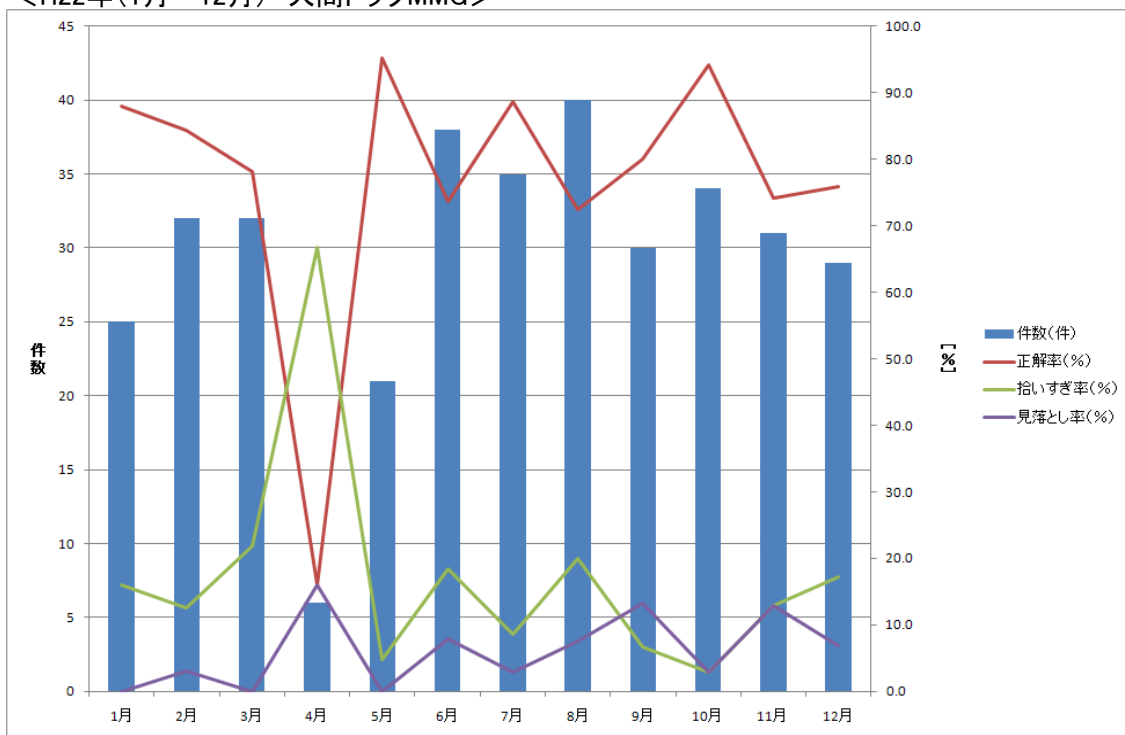
目的

◆当院で実施した乳癌検診によるMMG画像について、今までは撮影するだけでしたが、最近では技師認定を取得するにあたりかなりの読影力が要求されるようになってきました。
そこで技師のMMG読影力向上のため、まず自分で読影を行ないその後医師の読影所見と比較し、正解率・見落とし率・拾いすぎ率を求めるところにしました。

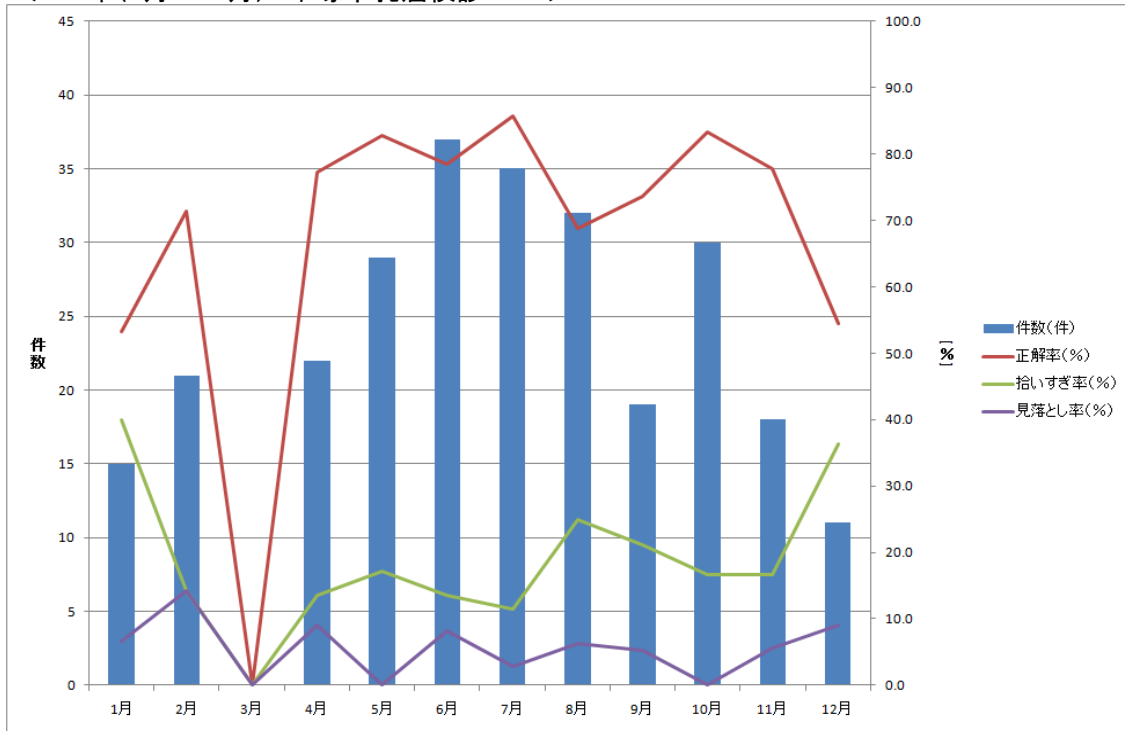
<H21年(1月～12月) 人間ドックMMG>



<H22年(1月～12月) 人間ドックMMG>



<H22年(1月～12月) 平塚市乳癌検診MMG>



コメント

◆正解率について、目標の70%を達成できておらず安定した読影力が身に付いているとは言えませんが、正解率が低い月は拾いすぎ率が高くなっていることから、病変を見落としているわけではないと言えます。しかし、認定技師の読影試験では拾いすぎた症例は不正解となり合格することはできません。読影力を向上させるためには、やはり拾いすぎ率を下げ正解率70%以上を維持することが大事であると言えます。見落とし率について平均が6.6%であり高くはないけれど、中には0%の月もあり病変を見落すことはあってはならないことなので、やはり下げるといよりは0%を目標にしたいと思います。

今回は正解率に重点を置いて統計を出しましたが、この正解率は病変の有無にかかわらず、医師の読影所見と技師の読影所見が一致した場合に正解として数えてきました。しかし統計をまとめ終わった今思うことは、病変のある症例に着目し見落さずに拾いあげることのほうが重要だということに気付きました。

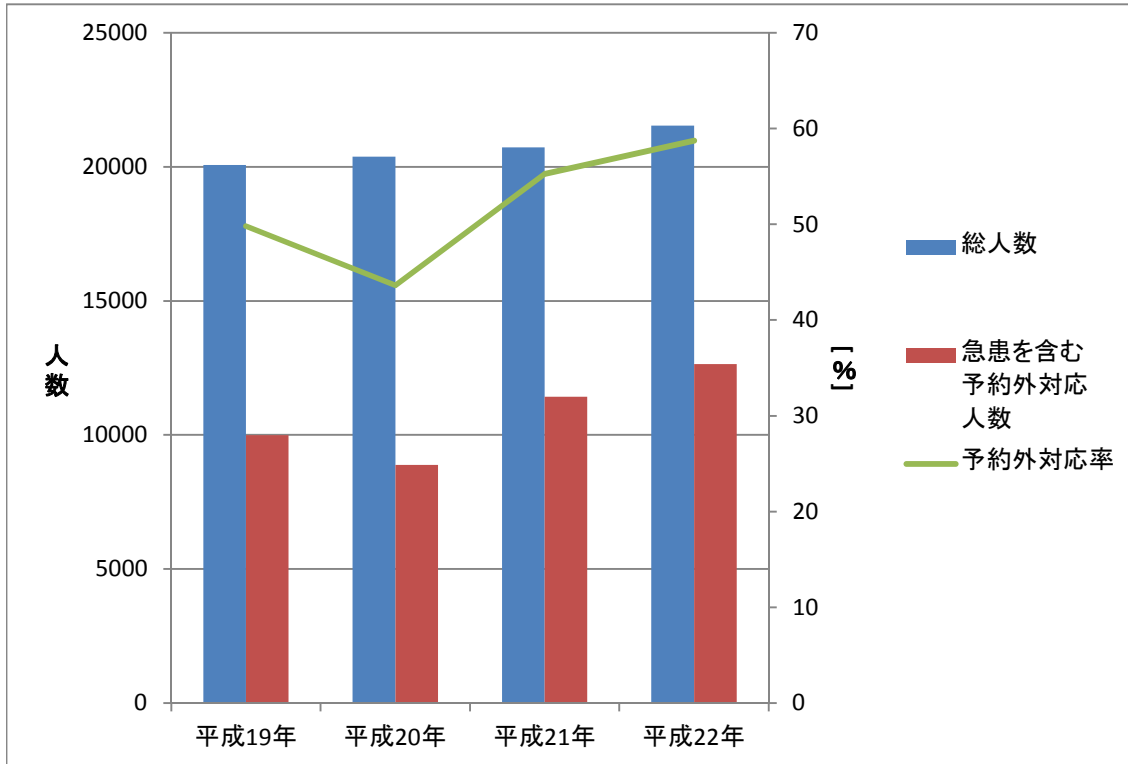
今後は、技師の読影力を向上していくために病変のある症例の読影内容に重点を置き、医師の診断に少しでも近づけるように努力していきたいと思います。

目的

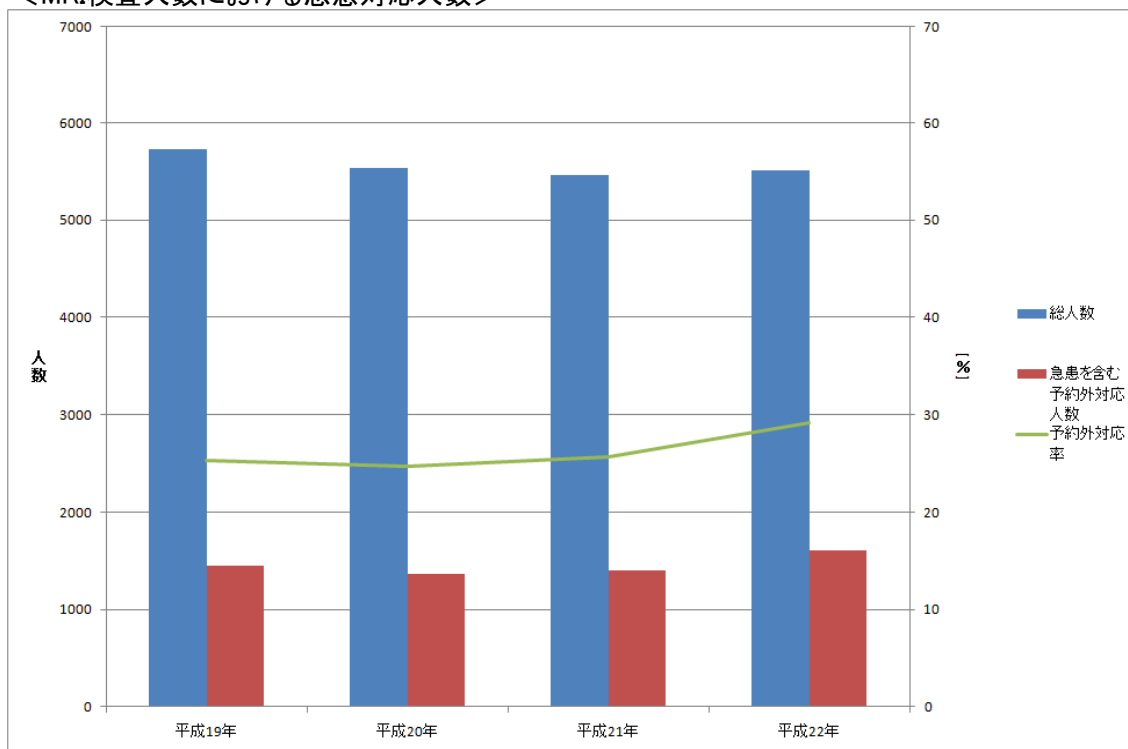
◆CT・MRIにおける 急患対応件数(夜間含む)

当院は地域支援病院として、急性期医療の充実を目指して、救急医療に対応すべく設備や体勢を強化しています、その中でCT・MRIでの即日診断を目指して、設備の更新や予約システムの改善、業務体制の整備を行った結果を評価するために下記の指標を作成しました。

<CT検査人数における急患対応人数>



<MRI検査人数における急患対応人数>



コメント

- ◆CT検査については、50%以上は即日診断を行えており、予約待ちも現在特殊検査を除いては、ほぼ予約待ちの無い状況まで改善しています。今後も現在の状況を維持しながらさらに、診断精度の向上を心掛けます。
- ◆MRI検査では、CTほどの即日診断は難しい状況ですが、急患対応率25%はMRI検査では良い成果を示していると思います。さらに今年度3TMRI導入により急患対応件数を増やし、予約待ち日数を減少させ急性期病院として即日診断に取り組んでいきます。